

報道関係各位

2018年1月17日

高校生以上の学生対象・がん検診でがんの早期発見を訴える

第6回がん征圧ポスターデザインコンテスト 作品募集 開始

— デザインでがんは減らせるか —

公益財団法人日本対がん協会は、若い世代の感性を生かした新鮮なデザインを期待するとともに、ポスター制作を通して「がん」や「がん検診」について知ってほしいという思いから、学生対象のポスターデザインコンテストを開催します。

最優秀賞に選ばれた作品は、毎年9月の「がん征圧月間」にあわせてポスターにし、全国の自治体、保健所、病院などで約5万部掲示されます。

「デザインでがんは減らせるか」という大きな課題に挑戦してみませんか。

【主催】 公益財団法人 日本対がん協会

【エントリー・作品募集期間】 2018年1月17日（水）～3月23日（金）

【募集内容】 がんの早期発見の大切さを伝え、検診の受診を呼びかける作品

【作品テーマ】 「がん検診に行こう」

【応募資格】 高校生・大学生・大学院生・短大生・専門学校生

【贈賞】 最優秀賞（1作品）：ポスターにして約5万部を全国の自治体、病院、保健所などに掲示
副賞として賞金10万円を贈呈

優秀賞（3作品）：賞状と副賞1万円を贈呈

※詳細はコンテスト特設サイトをご覧ください。<http://www.jcsposter.com/>

第5回 最優秀賞

※学年は2017年3月の応募当時

勝森彩香さん(沖縄県立芸術大学2年)『この人は嘘をついています』

【作品説明】

がんは自分が気付かないうちに進行している。これを伝えるために、がん検診に行かないガンコな人が言いそうなセリフを考えました。

イラストとセリフのラフなタッチと注意書きの緊張感で2つのギャップを持たせて、見ている人に興味を持ってもらおうと思いデザインしました。

<審査員> (敬称略・五十音順)

大谷剛志 (厚生労働省健康局がん・疾病対策課課長補佐)

岸田徹 (NPO法人 がんノート代表理事)

後藤尚雄 (日本対がん協会理事長)

中川恵一 (東京大学医学部附属病院放射線科准教授/放射線治療部門長)

廣村正彰 (グラフィックデザイナー)

本田亮 (クリエイティブディレクター)

本多昭彦 (日本対がん協会広報グループマネジャー)



△この人は嘘をついています。

がんは自分が気付かないうちに進行しています。
がん検診に行って、早期発見を。

9月、がん征圧月間
公益財団法人 日本対がん協会

がんには負けない社会をつくる。

公益財団法人



日本対がん協会

本件に関するお問い合わせは下記にお願いします

■公益財団法人日本対がん協会 広報担当

TEL: 03-3541-4771 / Mail: office@jcancer.jp